

2011. 8. 26
日本書籍出版協会

出版物の複製に関する実態調査 概要

I 一般消費者における出版物の複製行為に関する実態調査

1. 調査概要

①調査目的

一般消費者における出版物の複製の状況や複製に対する認識等ならびにインターネット上に不正に流通している出版物との接触状況や利用状況など、出版物に関する著作権侵害の実態について情報を収集・把握することで、違法流通対策を検討するための資料を得ることを目的とする。

②対象者

【18歳以上の回答者】 3,876名

国内47都道府県に居住している高校卒業以上の者（高専生4年～5年含む）で、自宅に自身が操作できるPCを有しており（同居家族との共用も可）そのPCでインターネットを利用している者、かつ2010年の1年間に出版物をコピーした経験のある者。

男性 1,889名(48.7%) 女性 1,987名(51.3%)

年齢 18～19 37名 20～29 486

30～39 1,060 40～49 1,117

50～59 784 60～ 392

【18歳未満の回答者】 600名

国内47都道府県に居住している中学生（1年～3年）・高校生（1年～3年）・高専生（1年～3年）で、自宅に自身が操作できるPCを有しており（同居家族との共用も可）、そのPCでインターネットを利用している者、かつ2010年の1年間に出版物をコピーした経験のある者

③調査期間

2011年4月15日（金）～4月20日（水）

2. コピー機・複合機によるコピー

①昨年1年間に出版物を複製した方法

「コピー機・複合機など（以下、「コピー機等」）で紙にコピー」が91.4%（高校生以下では89.0%）を占める。次いで「スキャナーでスキャンし電子ファイルを作成」が27.3%（高校生以下は18.5%）。

②コピー機等の利用者のコピーした出版物

「地図」47.9%が最も多く、以下、「専門書」20.2%、さらに「実用書」「旅行書」「雑誌」が2割弱で続く。コピー機等でコピーした（複製元）出版物の総冊数は平均で7.2冊となる（1冊のうちの一部をコピーした場合も1冊と計算）。

高校生以下では、「学習参考書・問題集」の42.7%が最も多く、次いで「楽譜」37.8%、「地図」24.9%、「雑誌」21.0%、「辞書・辞典」17.6%と続く。

③出版物をコピーする頻度

「月1日以下の頻度」が58.9%（高校生以下は64.4%）と半数を超え、次いで「月に1日くらい」が17.2%（同12.9%）である。「月に2日～3日くらい」は12.7%（同10.3%）、「週1日以上」は11.2%（13.3%）にとどまる。

④利用者のコピー目的

【オフィシャル目的】が60.5%、【プライベート目的】が77.6%である。

【オフィシャル目的】では「自分用に仕事や学業の参考資料として」49.8%が最も高く、以下、「他人用に仕事や学業の参考資料として」21.3%、「地図・時刻表など仕事や学業で行動を助けるための資料として」が20.3%など。

【プライベートな目的】としては「自分用の趣味のための資料として」が56.1%と最も高く、以下、「グルメ誌・地図・時刻表など生活・余暇を助けるための資料」33.3%と続く。

目的率が高い用途ほどコピーの頻度が高くコピー機会が多い、という相関傾向が概ねみられる。

高校生以下では、「授業で利用する資料として」がトップで54.3%。「授業以外の勉強で利用する自分用資料として」43.6%、「趣味のための自分用資料として」41.9%。

以下、大きく差があって「友達同士やクラブ活動などで同じ資料として利用するため」19.9%と続く。

⑤コピーする場所

トップ3は「自宅」55.7%、「勤務先（無料）」45.2%、「商業施設・宿泊施設（有料）」26.3%で、第4位の「公共図書館」も12.5%と1割を超える（複数回答）。

高校生以下では、コピー機・複合機での利用者がコピーする場所は、「自宅のコピー機」が62.2%とぬきんでてトップである。次いで「学校」が40.7%（無料の場合が25.5%、有料の場合が15.2%）、「有料」の「コンビニ・DPE店・文具店・書店・DVD店」が40.1%で続く。

⑥コピーした出版物の入手先

トップは「自身で購入した書籍・雑誌」で73.0%（高校生以下は65.5%）を占める。以下、「図書館から借りた書籍・雑誌」45.2%、「勤務先の経費で購入した書籍・雑誌」37.9%、「友人・知人・家族などから借りた書籍・雑誌」37.2%、「勤務先で付与された書籍・雑誌」25.3%と続く。

高校生以下の第2位以下は、「学校にある本・雑誌／学校から配られた本や雑誌」が40.6%、「友人・知人・家族などから借りた本や雑誌」が20.0%と続く。

⑦コピーした出版物を他の人に配布した経験

経験があるという人は54.2%と半数を超える（高校生以下では41.0%にとどまる）。その配布先は「勤務先の上司・同僚・部下」22.9% 「家族」22.2% 「友人・知人」18.5%などが上位。

⑧事前の相談・許諾

高校生以下でコピー機・複合機での利用者が出版物をコピーした際に、コピーをしてもいいかといった相談、許可を求めたかについては「求めたことはない」は8.2%にとどまり「求めたことがある」が91.8%と圧倒的多数であった。相談、許可を求めた相手先は提示した選択肢の中では「親や家族」23.0%、「学校の先生」20.8%、「友人」13.7%が上位であったが、最も多かったのは「その他」の42.1%。

出版物をコピーした際の権利処理に関しては、著作者や管理団体等の「許諾をとってコピーをしたことがある」経験者は5.7%にとどまる（高校生以下では僅か0.6%）。

3. スキャナーでのスキャン

①スキャナー利用者のスキャンした出版物

「地図」32.3%が最も多く、次いで「専門書」26.2%、「雑誌」25.4%、「ビジネス書」22.5%、「実用書」21.1% が2割台で続く。

高校生以下では、スキャナーでの利用者のスキャンした出版物は、「楽譜」34.2%が最も多く、次いで「雑誌」27.0%、「学習参考書・問題集」23.4%、「地図」22.5%が続く。

②スキャンした複製元の出版物の冊数

【すべてまたは大部分をスキャン】が平均1.8冊、最大300冊、【半分程度をスキャン】も平均1.1冊、最大50冊と“半分以上のスキャン”は平均で1~2冊程度で、8割弱の人は“半分以上のスキャンをしてはいない”。

一方、【一部分をスキャン】は「3~5冊」が27.2%、「1冊」が26.3%。“最大5冊まで”でみてもスキャン経験者の約68%を占める。平均は6.7冊、最大は300冊である。

以上のスキャナーでスキャンした（複製元）出版物の総冊数は平均で9.6冊となる。

③出版物をスキャンする頻度

「月1日以下の頻度」が52.1%（高校生以下は55.0%）と半数を超え、次いで「月に1日くらい」19.0%（同20.7%）、「月に2日~3日くらい」は13.5%、「週1日以上」を合わせると約15%（同約14%）である。

④スキャンの目的

【オフィシャル目的】が66.9%、【プライベート目的】が70.5%。

高校生以下では、「自分用の趣味のための資料として」の45.0%を筆頭に、「授業で利用する資料として」43.2% 「授業以外の勉強で自分用に利用する資料として」40.5%、「友達同士やクラブ活動などで、資料を一緒に利用するため」19.8%と続く。

⑤ スキャンする場所

最も多いところは、「自宅」66.1%、「勤務先」51.3%（複数回答）。「コピー・印刷・製本などのサービスをする専門店」や「商業施設・宿泊施設（有料/コンビニ、書店、ホテルなど）」は、複数回答でも5%未満と低い。

高校生以下では、「自宅」が82.0%と圧倒的。大きく差があつて第2位は「学校」の22.5%。以下、「学習塾・予備校・英会話学校など」9.9% 「DPE店・文具店・書店・DVD店などの商業施設」9.0%、「コピー・印刷・製本などの有料サービスをする専門店」7.2%と続く。

⑥ スキャンした出版物の入手先

トップは「自身で購入した書籍・雑誌」で76.7%を占める。以下、「勤務先の経費で購入した書籍・雑誌」46.9%、「図書館から借りた書籍・雑誌」36.5%、「勤務先で付与された書籍・雑誌」31.9%、「友人・知人・家族などから借りた書籍・雑誌」30.2%と続く（複数回答）。

高校生以下では、「自分で買った本や雑誌」66.7%が抜きん出ている。以下大きく差があつて「学校にある本・雑誌/学校から配られた本や雑誌」32.4%、「図書館から借りた本や雑誌」15.3%、「友人・知人・家族などから借りた本や雑誌」15.3%、「塾や予備校などにある本や雑誌/塾や予備校から配られた本や雑誌」11.7%と続く。

⑦ スキャンした出版物の利用形態

「印刷して使用することの方が多し」が31.6%、「電子ファイルで使用することの方が多し」が36.3%と、やや“印刷しないで”電子ファイルで使用する傾向が強いと受け取れる（「半々くらい」は32.1%）。

高校生以下では、「印刷して使用することの方が多し」が58.6%と半数を超えて、「電子ファイルで使用する事の方が多し」の17.1%を大きく上回る。

⑧ 公開・アップロード

スキャンした出版物の電子ファイルをインターネット上に公開・アップロードしたことがあるかについてみると「公開・アップロードしたことがある」との経験者は6.2%にとどまる（高校生では15.3%となっているが、サンプル数が少ないので参考値）。

高校生以下で、今後、スキャンした出版物の電子ファイルをインターネット上にアップロードしたい意向としては「とてもしたい」が5.4% 「まあしたい」17.1%を合わせて“意向あり”は22.5%と、5人に1人程度の割合である。一方で“意向なし”が55.9%と半数を超える。

⑨ アップロードの目的

スキャンした出版物（電子ファイル）をインターネット上に公開・アップロードした経験者のアップロード目的としては「好きな出版物のジャンルを他の人に読んでもらいたいから」24.2%を筆頭に、「好きな作家の出版物を他の人に読んでもらいたいから」22.7%、「珍しい希少な出版物を他の人に読んでもらいたいから」19.7%、「新しい出版物や流行の出版物を他の人に読んでもらいたいから」18.2%が上位。

⑩電子ファイルの提供先

スキャンした出版物（電子ファイル）を渡した相手は「勤務先の上司・同僚・部下」57.6%が最も多く、以下、「友人・知人」40.5%「取引先など勤務先以外の仕事関連の人」37.0%と続く「家族」は19.0%「就学先の教員や研究者」は5.2%。

⑪事前の許諾

出版物をスキャンした際に権利者の許諾を取ったかについては、「許諾をとってスキャンしたことがある」経験者は5.7%にとどまる。

高校生以下では、「スキャンの許諾を求めたことがある」が48.6%「求めたことはない」が51.4%。相談や許諾を求めた相手先は「親や家族」が26.1%、「友人」19.8%、「学校の先生」14.4%が上位。

⑫出版物の複製の必要度

“必要”の高い順にみると「趣味の活動やレジャー活動において」64.0%「仕事や学業において」が60.8%と6割を超えており、次いで「学習・自己啓発・生涯学習などの活動において」が58.7%であった。

高校生以下では、【勉強することにおいて】は「とても必要」が30.2%「まあ必要」42.5%を合わせて“必要”が72.7%を占める。また、【勉強以外の生活全般において】は、「とても必要」が13.8%、「まあ必要」38.2%を合わせて“必要”が52.0%となっている。

4. 電子書籍のダウンロード

①電子書籍の購入経験

電子書籍のダウンロード購入経験者は「2010年以降に電子書籍をダウンロード購入したことがある」が11.8%(高校生以下では14.2%)、「2010年より前に購入したことはあるが昨年以降はない」が6.5%(同8.2%)で合わせて18.3%(同22.3%)、「電子書籍をダウンロード購入したことはない」が81.7%(同77.7%)を占める。

②ダウンロード購入したジャンル

「コミック・マンガ」が46.9%でトップ、次いで「文芸書・小説・エッセイ」30.6%「ビジネス書・実用書」27.3%「趣味・スポーツ・エンターテインメント」13.1%が続く。

高校生以下では、「コミック・マンガ」が77.6%と圧倒的にトップ。以下大きく差があって「文芸書・小説・エッセイ」32.9%「趣味・スポーツ・エンターテインメント」11.8%、「ノンフィクション」9.4%と続く。

③電子書籍の購入の意向

今後の電子書籍のダウンロード購入意向としては、「とても購入したい」3.6%、「まあ購入したい」20.3%で、合わせた“購入意向者”は24.0%“非意向者”は42.1%で“購入意向者”を上回るただし「どちらともいえない」も33.9%と3人に一人いる。

高校生以下では、「とても購入したい」7.8%、「まあ購入したい」16.7%で、合わせた“購

入意向者”は24.5% “非意向者”は46.7%で“購入意向者”を上回る。なお「どちらともいえない」が28.8%と3割弱いる。

5. 著作権に対する意識

著作権に関する考えについてたずねたところ、最も“あてはまる”が高いのは「知らず知らずのうちに著作権侵害をしている人が多いと思う」で77.1%。次いで、「著作権がどのような権利なのかを知っている」70.3%が7割台と高かった。以下、「著作権侵害がどのような行為なのかを知っている」64.9%、「著作権の対象となる著作物がどのようなものかを知っている」55.2%、「私的複製で許される範囲（行為）がよくわからない」51.7%であった。

高校生以下では、「著作権がどのような権利なのかを知っている」が65.7%、次いで「知らず知らずのうちに著作権侵害をしている人が多いと思う」が60.8%であった。以下、「著作権のある著作物がどのようなものかを知っている」53.2%、「著作権侵害がどのような行為なのかを知っている」52.2%と続く。また、「自分は著作権を守って生活していると思う」は12.7%にとどまる。

II インターネット上における書籍の無許諾配信実態調査

A ウェブサイト調査

1. 調査目的

日本国内で発行されている書籍を対象に、それらがインターネット上で無許諾で配信され、一般ユーザが簡単に入手することが可能となっている実態を調査すること

2. 調査内容

調査	対象作品	対象サイト	調査方法
作品カバレッジ	コミック、文芸	一般検索エンジン	日本語での作品名検索
サイト内流通総量	コミック	日本人向け無許諾配信サイト	サイト内の全ページ確認
作者別流通書籍	文芸	中国語日本コンテンツ無許諾配信サイト	日本語、中国語著者名での検索

3. 調査方法

(1) 作品カバレッジ調査

一般的なユーザがインターネット上でデジタル化された書籍を探す場合に用いられると想定される方法を模して無許諾配信サイトを探索し、著名作品の配信状況等を調査することで、無許諾配信書籍の多様性につき確認する。

調査方法：コミック作品および文芸作品を対象として著名な作品を、日本語でタイトルと良く使われるキーワード（Raw、無料、pdf、zip 等）を組み合わせ、検索エンジンを用いて探索する。その結果を目視にて確認し、5 ページ目までに無許諾配信サイト（外国語翻訳含む）があるかどうかを確認し、全作品のうちどの程度の割合で無許諾配信されているかを確認する。

(2) サイト内流通総量調査

コミック作品については専門で無許諾配信を行うサイトでどのような作品がどのような形態で配信されているのかを調査し、流通状況の実態を確認する。

調査方法：作品カバレッジ調査結果等から配信コンテンツ数が多いサイト内で無許諾配信されているコミックについて、配信ページを目視確認し、配信ページURL、数量（タイトル、サイトごとの設置量平均）、販売状況、著者、出版社の各項目を調査、集計する。

(3) 作者別流通書籍調査

文芸作品についても、日本人を対象とした（日本語で表示される等）専門サイトが中国のサイトで散見される。これらのサイトでどのような作品が無許諾配信されているのかを調査し、流通状況の実態を確認する。

調査方法：著名な作品の作者名について、日本語と中国語で中国の検索エンジンを用いて検索する。その結果を目視にて確認し、結果の5 ページ目までに無許諾配信サイト（日本語）があるかどうかを確認し、どの作品が無許諾配信されているかを確認する。

4. 調査結果

(1) 作品カバレッジ調査（コミック）

著名30タイトルを対象として2011年4月11 日～2011年4月15 日の期間、調査を行った。

検索サイト	無許諾配信サイト 存在率（カバレッジ）	検索結果発見ページ 平均値
Yahoo	93.3%	1.5
Bing	90.0%	2.0
百度(jp)	93.3%	2.1

無許諾配信サイト例

カバレッジ調査では45個の無許諾配信サイトが発見された。以下に例を示す。

「Alavache Raw」<http://jappwjappw.blogspot.com/>

「TORRENT 何でも屋」<http://torrent83.blog98.fc2.com/>

(2) 作品カバレッジ調査（文芸）

著名26タイトルを対象として2011年4月18日～2011年4月20日の期間、調査を行った。

検索サイト	発見率	ページ平均値
Yahoo	7.7%	1.5
Bing	3.8%	0.3
百度(jp)	0.0%	0.0

無許諾配信サイト例

カバレッジ調査では3個の無許諾配信サイトが発見された。以下に例を示す。

「VERYCD」<http://www.verycd.com/>

「NyaaTorrents」<http://www.coay.com/>

(3) サイト内流通総量調査（コミック作品）

10サイトを対象として2011年4月11日～2011年5月13日までの期間で調査を行った。なお、各サイトとも2011年3月31日までの更新内容について対象とした。

流通量

各サイトにおける無許諾配信コンテンツの流通量を以下に示す。

サイト名	ページ数	ページ内平均 タイトル数	ファイル数
Alavache Raw	63	1.00	63
Manga raw spoilers scan naruto one piece bleach	854	1.14	972
Manga Zip	1,976	1.00	1,977
Raw Scan Manga	28	49.75	1,393
Raw Zip	481	1.28	616
Raw-Bunko	1	148.00	148
オレンジ色のひよこ	1,754	1.00	1,760
とれん袋	139	1.00	139
漫画 torrent download	1,034	1.00	1,035
漫画全巻トレントジップ	507	1.00	507
合計	6,837	-	8,610

著者割合

著者別に対象サイトで発見されたファイル数が多い順に以下に示す。

著者名	タイトル	ファイル数
尾田栄一郎	ONE PIECE	161
久保帯人	BLEACH	159
小畑健、大場つぐみ	バクマン	146
島袋光年	トリコ	134
岸本斉史	NARUTO—ナルト—	130
田村隆平	べるぜバブ	127
暁月あきら、西尾維新	めだかボックス	122
椎橋寛	ぬらりひよんの孫	122
天野明	家庭教師ヒットマンREBORN!	114
藤巻忠俊	黒子のバスケ	100

(4) 作者別流通書籍調査（文芸作品）

著名著者を対象に中国語サイトでの流通状況について調査を行った。

著作者	発見タイトル
村上春樹	1 Q 8 4、ノルウェーの森、アフターダーク、象の消失、ダンス・ダンス・ダンス、羊をめぐる冒険、ねじまき鳥クロニクル、タクシーに乗った吸血鬼、五月の海岸線、パン屋襲撃、ローマ帝国の崩壊、ニューヨーク炭鉱の悲劇、飛行機—あるいは彼はいかにして詩を読むようにひとりごとを言ったか、ゾンビ、四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて、シドニーのグリーン・ストリート、カンガルー日和、神の子どもたちはみな踊る、双子と沈んだ大陸、中国行きのスロウ・ボート、無駄になった王国、眠り、国境の南、太陽の西、1973年のビンボール、氷男、図書館奇譚、めくらやなぎと眠る女、スプートニクの恋人、東京奇譚集、海辺のカフカ、象工場のハッピーエンド、蛍、ランゲルハンス島の午後、夜のくもざる、レキシントンの幽霊、スバゲティの年に、とんがり焼の盛衰、回転木馬のデッド・ヒート、世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド、風の歌を聴け、TV ピープル、羊男のクリスマス、雨天炎天、土の中の彼女の小さな犬、加納クレタ、チーズ・ケーキのような形をした僕の貧乏、32歳のデイトリッパー、1963/1982年のイパネマ娘、我らの時代のフォークロア—高度資本主義前史、ねじまき鳥と火曜日の女たち、踊る小人、嘔吐1979、貧乏な叔母さんの話、野球場、七番目の男、蜂蜜パイ、沈黙、雨やどり、ふわふわ、ハンティング・ナイフ、カンガルー通信、午後の最後の芝生、ファミリ

	ー・アフェア、トニー滝谷、緑色の獣、走ることについて語るときに僕の語ること、タコ、うなぎ、かいつぶり
岩崎夏海	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら
宮部みゆき	火車、理由、ブレイブ・ストーリー、ステップファザー・ステップ、模倣犯、誰かSomebody、R.P.G.、長い長い殺人、初ものがたり、スナーク狩り、心とろかすような マサの事件簿、魔術はささやく、鳩笛草一燔祭・朽ちてゆくまで、龍は眠る
東野圭吾	容疑者X の献身、変身、卒業—雪月花殺人ゲーム、美しき凶器、11文字の殺人、放課後、悪意、聖女の救済、予知夢、回廊亭の殺人、名探偵の掟、探偵ガリレオ、赤い指、手紙、トキオ、ゲームの名は誘拐、殺人の門、流星の絆、白夜行、ダイイング・アイ、秘密、幻夜、パラレルワールド・ラブストーリー、分身、使命と魂のリミット、レイクサイド

無許諾配信サイト例

作者別流通調査では15 個の無許諾配信サイトが発見された。以下にサイトの例を示す。

「佳人」

「努努书坊 经典文学作品、txt 小说作品在线阅读」

B P2P ネットワーク調査

1. 調査手法

2011年5月1日 0:00 より24時間のP2P クローラの出力から「小説」「コミック」のキーワードがファイル名に含まれるキー情報を抽出した。そのうち、本調査に無関係と考えられるアダルト関連等のキーワード（NGワード）が含まれるキー情報及びファイルサイズが小さすぎる（10KB 以下）を除外したものについて、分析、集計を行った。

2. 調査対象としたネットワーク

国内のコンテンツが主に流通するP2P ネットワークを対象として、Winny、Share、Perfectdark を選定した。

3. 調査結果

流通するコミックおよび小説の種類割合 (n=3, 262, 395)

	小説	コミック	その他
Winny	1.6	8.5	89.9